

---

『大学入学希望者学力評価テスト（仮称）』の  
システム構築に向けた構想設計に関する調査研究事業  
最終報告書

---

平成 28 年 3 月 31 日

文部科学省

第 1.0 版

# 目 次

はじめに .....	1
1. 本事業の目的 .....	1
2. 調査の観点 .....	1
3. 調査の全体像 .....	2
<b>第1章 国内外の類似業務及びシステムの調査・分析結果 .....</b>	<b>3</b>
1. 国内調査 .....	3
1.1. 大学入試センター試験 .....	3
1.2. 薬学共用試験 .....	8
1.3. 医療系大学間共用試験 .....	10
2. 海外調査 .....	12
2.1. SAT (Scholastic Assessment Test) .....	12
2.2. ACT (American College Testing) .....	20
2.3. NAPLAN (National Assessment Program – Literacy and Numeracy) .....	22
2.4. その他の大学入学者選抜に係る共通試験 .....	24
2.5. 米国における SAT/ACT のスコアの利用状況について .....	24
2.6. 記述 (エッセイ) の自動採点の利用事例 .....	26
<b>第2章 大学入学者選抜に関する調査 .....</b>	<b>27</b>
1. 高等学校教育の動向 .....	27
1.1. 生徒の学習に対する主体性に関する調査 .....	27
1.2. 学習行動・意識に関する調査、分析 .....	28
2. 大学教育の動向 .....	29
2.1. 大学への大学入学希望者学力評価テスト (仮称) に関するアンケート調査 .....	29
3. 大学入学者選抜の動向 .....	35
3.1. 大学、高校、保護者に対する調査結果 .....	35
4. 民間教育業者の動向 .....	39

# はじめに

## 1. 本事業の目的

中央教育審議会答申（平成 26 年 12 月）において提言された「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入に向け、現在、「高大接続システム改革会議」において検討が進められている。

この「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入に当たっては、特に、大学入学者選抜における共通テストとして、50 万人規模で実施する記述式問題、CBT、等化等（以下「記述式問題等」という。）の導入・実施が課題となっている。

その実現可能性について精度の高い裏付けを持つ実行計画等の策定が必要であり、現状の検討事項とスケジュールを勘案すると、早急に IT の知見やシステム開発経験を持つ技術的視点からの提案やそれに基づく構想設計（業務イメージ）を策定が求められる。

以上のことから、本事業では、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」における記述式問題等の導入に向けて、「高大接続システム改革会議」の「中間まとめ」（平成 27 年 9 月 15 日）等も踏まえた課題の分析を行うとともに、技術的な課題への対応策についての調査研究を実施する。また、記述式問題等の導入に係るシステム構築に向けた具体的な構想設計について、技術的知見に基づく助言や分析、提案等を行うとともに、技術的リスクを限りなく低減した信頼性のある構想設計を図る。

## 2. 調査の観点

本事業においては、これまでの「高大接続システム改革会議」における検討等を踏まえて、以下の観点に基づいた、調査研究を実施する。

### A) 共通

大学入学希望者学力評価テスト（仮称）における受検回数等、共通的な前提条件を明確化する。

### B) 記述式問題

知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力を問うため、現在のセンター試験における選択式問題に加え、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）における記述式問題の導入に向けた検討を行う。

### C) CBT (Computer Based Testing)

大学入学希望者学力評価テスト（仮称）における CBT 導入に向けた検討を行う。

### D) 等化

大学入学希望者学力評価テスト（仮称）における等化導入に向けた検討を行う。

### 3. 調査の全体像

本事業における、調査の全体像を以下に示す。

図表 1 調査の全体像

調査項目	調査内容	記載箇所
1. 記述式問題等導入に係る課題の調査	将来的に、50万人規模で実施する記述式を含む試験システムの目指すべき業務や目指すべきシステムの概要を検討する。この検討に先立ち、記述式問題等の導入・運用を検討するのに有用な、類似する業務及びシステムを選定し、その業務及びシステムに関する情報収集や導入・運用段階における課題の調査・分析を実施する。	第1章 1.
2. 目指すべき業務や前提条件の検討	大学入学者選抜において、50万人規模の記述式問題等を導入・運用するための目指すべき業務や前提条件等について、国内外の類似のシステムの事例に基づき、検討を行う。また、目指すべきシステムに関する導入及び運用・保守段階のコストのシミュレーションならびに、導入スケジュールについても検討を実施する。	第3章 第4章
3. 目指す姿に対する検証	大学入学者選抜において、50万人規模の記述式問題等を導入・運用するための目指す姿に対する検証を行う。検証にあたり、海外各国の大学入学者選抜に係る共通試験など、CBTを採用している事例の調査及び、大学関係者や海外の実施機関等を対象とした調査を行う。	第1章 2. 第3章 第4章

# 第1章 国内外の類似業務及びシステムの調査・分析結果

## 1. 国内調査

将来的に、50万人規模で実施する記述式問題を含む試験システムの業務やシステムを検討するにあたり、記述式問題等の導入・運用の検討に有用となる情報収集を目的として、国内の類似業務・システムとしての大学入試センター試験、薬学共用試験、医療系大学間共用試験についての調査・分析を実施した。以下に、その調査・分析結果を示す。

### 1.1. 大学入試センター試験

50万人規模の受検者数で実施される試験の業務運用・試験システムの参考事例として、大学入試センター試験に関する調査を実施した。調査結果の概要について、以下に示す。

#### (1) 大学入試センター試験の概要

大学入試センター試験とは、独立行政法人である大学入試センターが大学（短期大学を含む）に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習達成度を判定することを目的として実施している試験である。平成26年度センター試験では、志願者数560,672人を対象に、全国693箇所の試験場において、2日間で6教科30科目の試験を開催している。

#### (2) 業務概要について

大学入試センター試験を実施する上での運営業務は、試験企画・計画、問題作成、出願受付、問題管理・輸送、試験実施、採点、成績提供、モニタリングといった業務から成り立っている。具体的な業務の内容は、以下の通りである。

##### ① 試験企画・計画業務

協議会・委員会等の運営や試験実施のための計画の策定を行う。文部科学省が毎年定める「大学入学者選抜に係る大学入試センター試験実施大綱」に基づいて、「大学入学者選抜大学入試センター試験実施要項」を定めて、実施提要（実施に関する細目）を利用大学に周知する。また、策定された実施要項等に基づき、センター試験システムの整備を行う。

##### ② 問題作成業務

高等学校学習指導要領に準拠した適正かつ良質な問題を作成する。また、試験問題に関する点検と評価、および第三者評価を行い、その評価結果を公表する。

##### ③ 出願受付業務

志願者に対する受検案内等の配布から、受検票の作成・配布までを行う。受検案内等の配布後、高等学校等あるいは郵送により、志願者から送られてきた志願票と出願資格を証明する書類等を点検し、コンピュータ上に登録する。登録内容を記載した確

認はがきを志願者に送付し、登録内容の誤りの確認をする。試験場への志願者の割当を行った後に、受検票を作成し、志願者に送付する。

#### ④ 問題管理・輸送業務

利用大学が担当する試験実施、試験問題の管理・輸送に関する方針を策定し、試験問題冊子・解答用紙の印刷、保管・管理および輸送までを行う業務である。輸送要領を作成するなどして、円滑な業務の実施のための進捗管理や手配準備を行う。

#### ⑤ 試験実施業務

センターと利用大学が緊密に連携しながら、全国の試験会場において同一の期日に同一の試験問題により、試験を実施する業務である。また、実施に際しては、配慮を必要とする受検者（障がいのある志願者や、病気・天災その他やむを得ない事情により所定の試験を受検できなかった者等）に対しては、受検上の特別措置や追試験及び再試験等を、必要に応じ実施する。

#### ⑥ 採点業務

答案用紙の採点・集計を行い、得点調整（本試験において特定の科目間で20点以上の平均点差が生じた場合、試験問題の難易差によると認められる場合の措置）を行うまでの業務である。大量の答案用紙を正確かつ迅速に採点して集計するために、光学式マーク読取装置（OMR）の読取プログラム及びコンピュータによる採点プログラムを作成・点検の上で答案読取・採点を行う。

#### ⑦ 成績提供業務

利用大学からの請求に応じ、当該大学の入学志願者の試験成績を提供する業務である。国公立大学に対しては、入学志願者選抜業務のための出願状況資料の提供、合格者データの受領・登録、合格状況資料の提供を行い、また、試験成績の本人開示を希望する志願者には成績通知書を送付する。

#### ⑧ モニタリング業務

試験の実施方法等に関して大学等から意見収集、結果の分析評価を行い、改善策を策定する業務である。

以上の、一連の試験運用の業務を、大学入試センター試験では、大学入試センターで一括実施する業務とセンター試験を利用する国公私立の大学（以下、「利用大学」という）ごとに実施する業務をそれぞれ分担し、共同で実施している。

大学入試センターと各利用大学との業務分担を、以下の図表に示した。

図表 2 大学入試センターと利用大学の業務分担

大学入試センターで分担する業務	利用大学が分担する業務
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 受検案内、実施マニュアルなどの作成</li> <li>● 試験問題の作成、印刷、輸送</li> <li>● 出願の受付、試験場の指定、受検票の交付</li> <li>● 答案の採点、集計</li> <li>● 試験成績などの各大学への提供</li> <li>● 試験成績の本人開示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● センター試験の利用教科・科目及び大学ごとの学力検査などの予告</li> <li>● 試験場の設定、試験監督者などの選出</li> <li>● 志願者への受検案内の配付</li> <li>● 試験の実施</li> <li>● 答案の整理、センターへの返送</li> <li>● 試験成績の請求</li> <li>● 試験問題作成に携わる者の派遣</li> </ul>

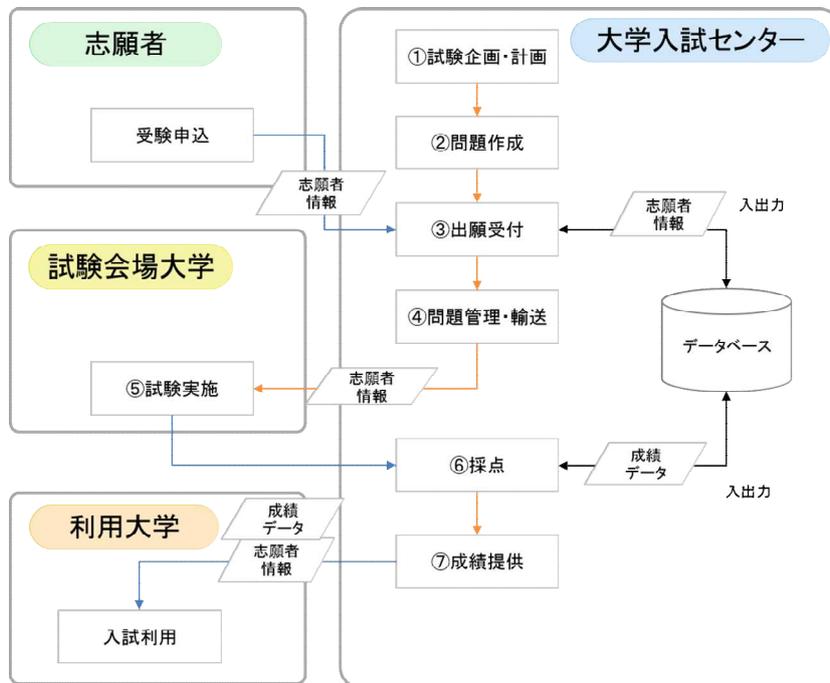
出典) 大学入試センター「業務・システム最適化計画」を参考に作成

(3) システム概要について

大学入試センター試験の試験情報システム（以下、「センター試験システム」という。）は、大型汎用コンピュータを導入し、志願者登録、各種帳票印刷、試験場割当、採点、成績提供、評価統計などの試験の実施運営に必要な一連の業務を、高速かつ大量に一括処理するシステムとして開発・運用されてきている。特に、センター試験は、大学入学者選抜試験という国民生活に密接に関連し高い信頼性が求められている事業であることから、システムの完全性・可用性及び情報セキュリティの確保が優先される。

以下の図表に、センター試験システムのイメージを示す。図は、試験を実施する上で発生する一連の業務（試験企画・計画、問題作成、出願受付、問題管理・輸送、試験実施、採点、成績提供）と、利害関係者との主なデータのやり取りを示したものである。

図表 3 大学入試センター試験システムのイメージ



出典) 大学入試センター「業務・システム最適化計画」を参考に作成

[http://www.dnc.ac.jp/corporation/center\\_gaiyou/kanri/system.html](http://www.dnc.ac.jp/corporation/center_gaiyou/kanri/system.html)

なお、大学入試センターでは平成 19 年度末に「業務・システム最適化計画」を作成し、以下の 7 つの方針をもとに、試験システムの見直しを図っている<sup>1</sup>。

- ① システムの完全性、可用性及び機密性の確保
- ② 業務の見直しによる大量帳票の印刷、発送業務の外部委託
- ③ システムの運用及び維持管理における経済性、効率性、柔軟性、保守性の改善
- ④ オープンソースソフトウェア（OSS）活用による総所有コストの削減
- ⑤ 高度情報通信技術の活用による業務の高度化、効率化
- ⑥ End User Computing（EUC）の導入によるシステムのスリム化

#### （4）課題

大学入試センターの試験運用業務や試験システムに関する課題としては、問題作成、円滑な試験の実施、及び採点・成績提供に関するものが挙げられる。

問題作成については、高等学校学習指導要領に準拠した良質な試験問題を作成する観点から、データベースの充実等による試験問題作成委員の業務負荷削減と、試験問題の出題範囲・出題内容・記述・難易度、科目間の重複等についての点検を行うことが目指される。

そして、試験の円滑な実施のために、大学入試センターと各大学との緊密な連携を一層強化していくことや秘密保持及び個人情報の取扱いに留意した適切な試験問題等の管理・輸送を実施することが目指される。

また、採点・成績提供に関しては、正確な採点および成績提供を目的として、情報処理システムの適切な管理・運営が目指されており、システム改修及びプログラムのチェック等のテストを確実に実施していくこととされている<sup>2</sup>。

---

<sup>1</sup> 独立行政法人 大学入試センター「業務・システム最適化計画」

[http://www.dnc.ac.jp/corporation/center\\_gaiyou/kanri/system.html](http://www.dnc.ac.jp/corporation/center_gaiyou/kanri/system.html)

<sup>2</sup> 大学入試センター 第 3 期年度計画（平成 23～27 年度）「平成 27 年度年度計画」を参考。

## 1.2. 薬学共用試験

CBT 方式で実施される試験の業務と試験システムの参考事例として、薬学共用試験に関する調査を実施した。調査結果の概要を以下に示す。

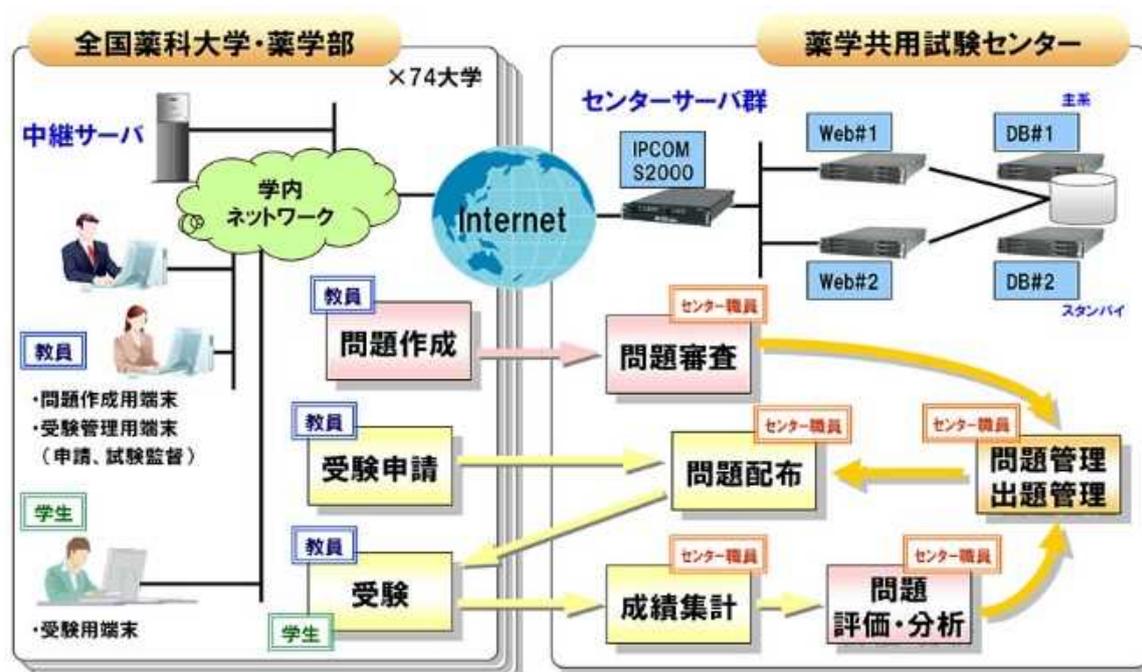
### (1) 薬学共用試験の概要

薬学共用試験とは、病院・薬局などの医療現場での実務実習を行う薬科大学・薬学部の学生の知識・技能レベルの習熟度を保証するための、全国の大学間で統一された試験である。薬学共用試験には 2 種類の試験があり、知識を評価する客観試験 CBT (Computer-Based Testing) と、技能・態度を評価する客観的臨床能力試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) で成り立っている。

### (2) 薬学共用試験における CBT システム

以下の図に示したように、薬学共用試験における CBT システムは、全国の 74 薬科大学・薬学部と薬学共用試験センターとをネットワークでつなぎ、問題の精選をネットワーク上でを行い、試験の実施においては、試験問題の配布から受検・成績評価までを運用している。

図表 4 薬学共用試験の CBT システムイメージ



出典) 特定非営利活動法人 薬学共用試験センター・富士通株式会社プレスリリース「薬学部の学生を対象とした薬学共用試験 CBT システムを構築」<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2010/05/17.html> (2010年5月17日)

試験時には、項目反応理論を活用してランダムに選別された試験問題が、東京理科大学・福岡大学に配備されているセンターサーバから各大学の中継サーバを経由して、試験会場のパソコンに送信される。受検者ごとに同等の難易度の問題が出題され、一定の基準に基づい

て受検者を評価することが可能である。平成 21 年度以降は、参加する各大学が毎年 20 題ずつの問題を作成し、現在までに約 34,000 題の候補問題が作られている<sup>3</sup>。

また、受検時の不正を防ぐため、独自アプリケーションを利用して試験問題を表示させている。不正に試験画面のコピーをすると、試験問題を強制終了させ、試験問題の漏洩を防ぐ等、セキュリティ面での対策も取られている。

### (3) 課題

薬学共用試験の CBT の運用に関する課題としては、問題作成における既出問題の情報管理が挙げられる。出題内容が固定化すると試験問題への対策が進み、CBT が容易化することで試験に対する信頼性の低下が懸念される。そのため、新たな問題を恒常的に追加していく仕組みが求められている<sup>4</sup>。

---

<sup>3</sup> 薬学共用センターホームページを参考。 [http://www.phcat.or.jp/?page\\_id=319](http://www.phcat.or.jp/?page_id=319) (2015 年 11 月 29 日参照)

<sup>4</sup> 山元 弘「薬学共用試験実施までの歩みと課題」第 150 回 日本獣医学会 学術集会 (2010 年 9 月 18 日)  
<http://plaza.umin.ac.jp/~vetedu/files/100918-sympo-1-2yamamoto.pdf>

### 1.3. 医療系大学間共用試験

前項 1.2. 薬学共用試験と同様に、CBT 方式で実施される試験の業務と試験システムの参考事例として、医療系大学間共用試験に関する調査を実施した。調査結果の概要について、以下に示す。

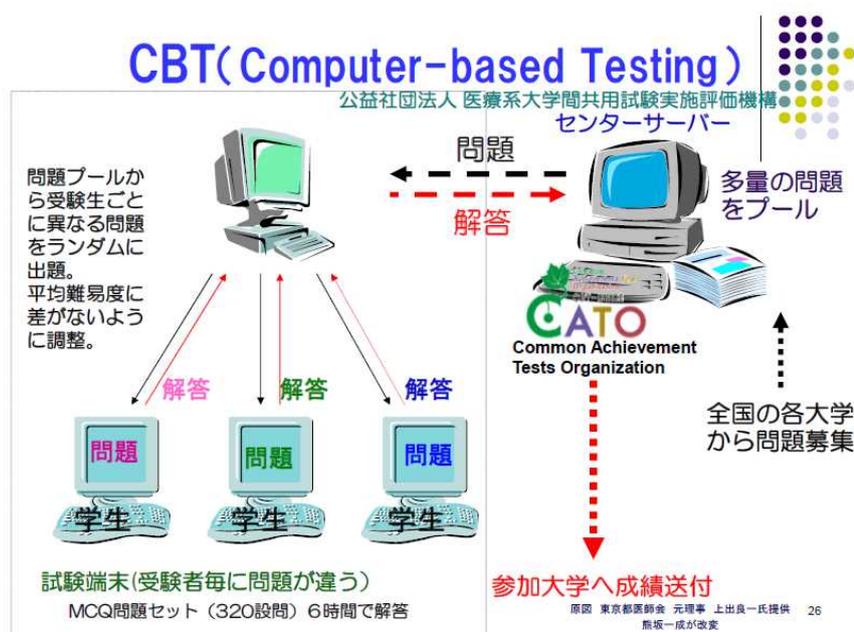
#### (1) 医療系大学間共用試験の概要

医療系大学間共用試験とは、臨床実習開始前の医学・薬学系学生の能力を全国的に一定水準に確保することを目的とした試験であり、公益社団法人である医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）が運用している。国公立全 80 医科大学・大学医学部等および 29 歯科大学・大学歯学部が参加し、大学間で共通の評価試験を実施している。試験は、CBT により知識の総合的理解力を問う客観試験と、OSCE により診療技能・態度を問う客観臨床能力試験の 2 種類により成り立っている。

#### (2) 医療系大学間共用試験における CBT システム

試験問題は、共用試験実施評価機構（CATO）が各大学に依頼して作成され、CATO で蓄積される。CATO のセンターサーバと各大学とはネットワークでつながれており、CATO は集められた大量の問題から受験生間で難易度に差が生じないように複数組の問題セットを作成し、センターサーバを通じて各大学に試験実施キットを送付する。また、解答は CATO に送られて採点され、各大学へは個人別成績表等の結果が送付される。医療系大学間共用試験の CBT システムイメージを、以下の図表に示す。

図表 5 医療系大学間共用試験の CBT システムイメージ



出典) 高木康 (共用試験実施機構)「共用試験実施機構と共用試験」

厚生労働省 第 1 回医師国家試験改善検討部会資料 (2014 年 6 月 18 日)

<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10803000-Iseikyoku-Ijika/0000048625.pdf>

### (3) 課題

医療系大学間共用試験の CBT の運用に関する課題としては、主に問題作成及び成績評価に関するものが挙げられる。

問題作成については、試験問題を継続的に蓄積していくことで、経年変化の追跡調査による試験問題の点検作業の実施や、問題作成担当者の負担軽減が目指されている。また、成績評価については今後、項目反応理論（IRT）を用いた推定能力値（偏差値に相当）を積極的に利用していくとされている<sup>5</sup>。

---

<sup>5</sup> 福田康一郎（一般社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構）「医学教育改革：問題点の改善と進捗」文部科学省 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会（第3回）資料（2013年2月12日）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/095/shiryo/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2013/02/19/1330783\\_03.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/095/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2013/02/19/1330783_03.pdf)

## 2. 海外調査

以下では、成績表示及び記述式問題に関する調査を中心として、米国の大学進学希望者を対象とした共通試験である SAT (Scholastic Assessment Test) と ACT (American College Testing)、豪州の学力テストである NAPLAN (National Assessment Program - Literacy and Numeracy) に関する調査結果を示す。また、米国におけるスコアの利用方法、及び記述式問題の採点効率化に関する観点から記述式問題の自動採点システムについての調査結果も併せて示す。

### 2.1. SAT (Scholastic Assessment Test)

複数回の受検が可能な大学入学者選抜に係る共通試験である SAT についての調査結果を以下に示す。

SAT は 2016 年 3 月より、大学での学力面の適応性を計る物差しとして精度を高めるための大幅な改定が実施されており、問題の出題形式やその内容、成績表示内容など、多くの点で変更が行われた<sup>6</sup>。以下では両者を区別するため、2016 年 3 月より前に実施されていた SAT を「旧 SAT」、2016 年 3 月以降に実施されている SAT を「新 SAT」と呼ぶ。

#### 1. 旧 SAT

##### (1) 得点構成

Math (数学)、Critical Reading (読解)、Writing (エッセイと文法) の 3 領域で構成されている。それぞれ 200 点から 800 点で、合計 2,400 点満点である。

##### (2) 記述式問題

選択型の Writing とは別に回答時間が 25 分間のエッセイが用意されている。2-12 点の得点範囲で、文字数は指定なしだが、高得点を獲得するには 450 文字程度の文章量が必要とされている。2 名の採点者が同一の答案を個別に 1-6 点で採点し、その合計得点が最終的な得点となる。経験がありトレーニングを受けた高校または大学の先生が採点者となる。また、エッセイを含めた全テストの採点に要する期間は 17-22 日である。

##### (3) スコアレポート

スコアレポートに関する解説付きサンプルを以下に示す<sup>7</sup>。

---

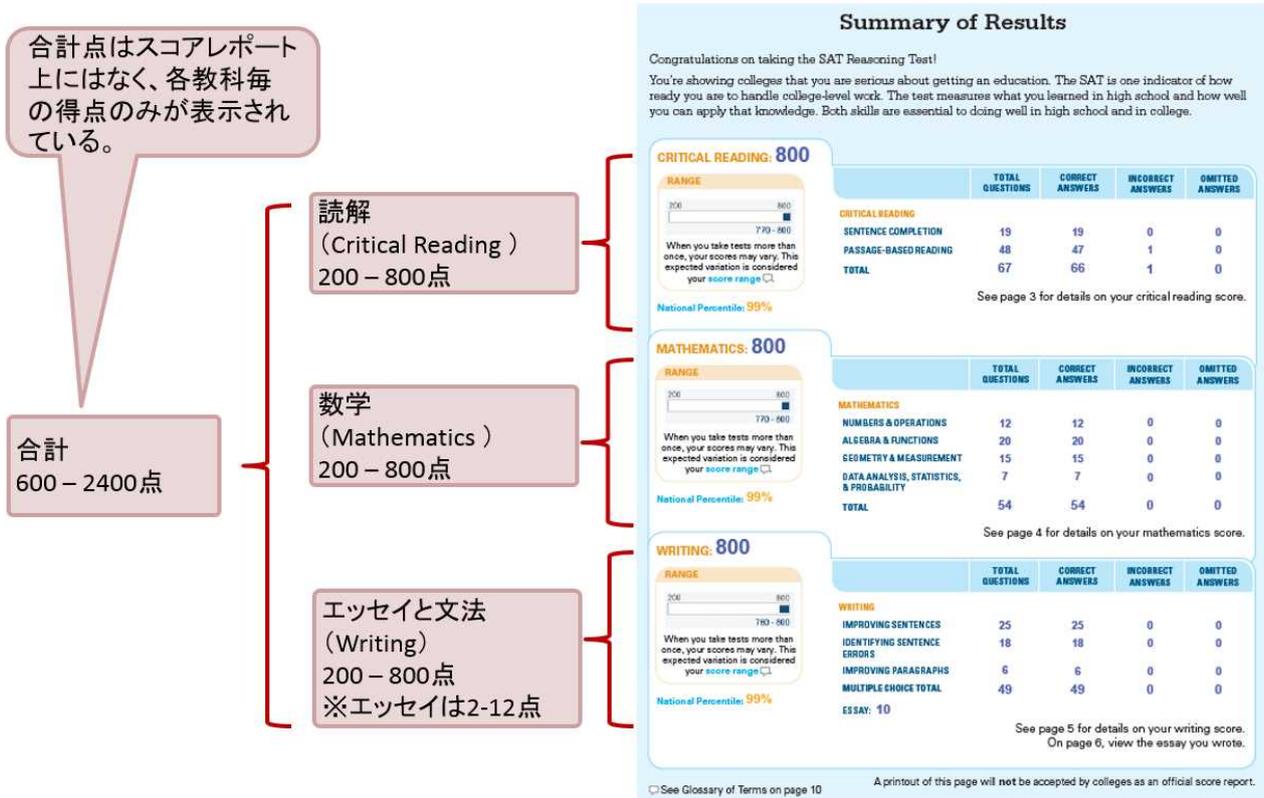
<sup>6</sup> Compare SAT Specifications

(<https://collegereadiness.collegeboard.org/sat/inside-the-test/compare-old-new-specifications>)

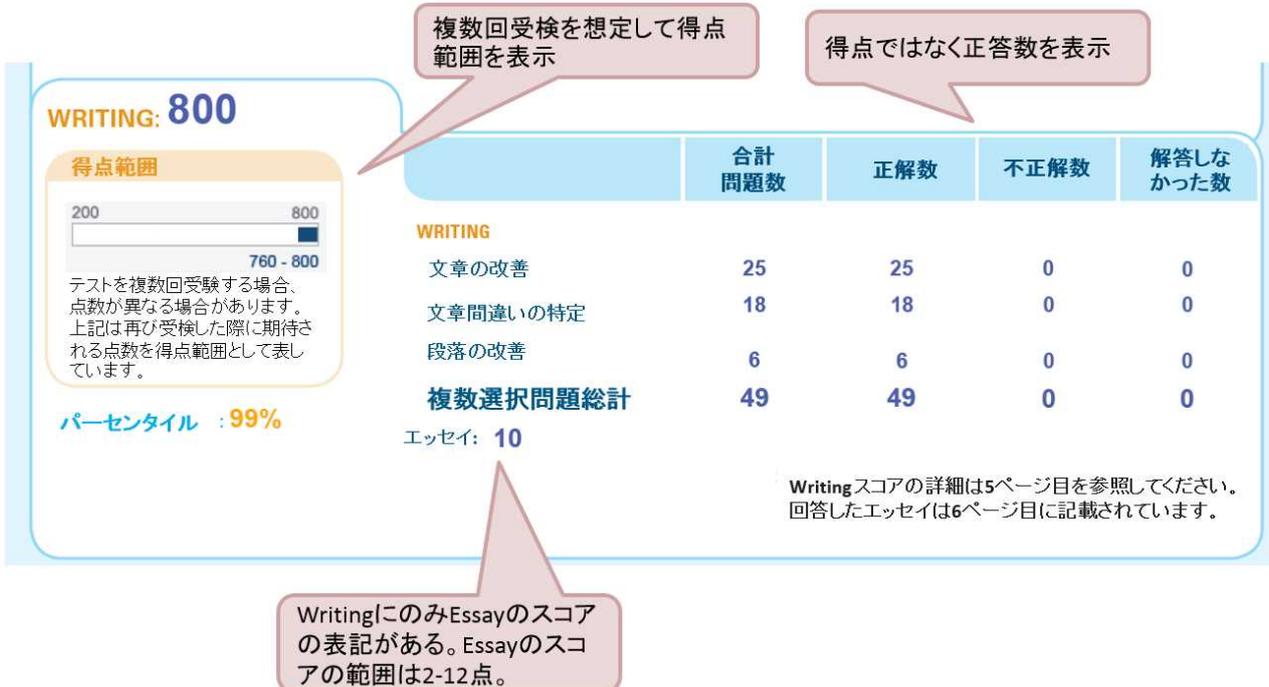
<sup>7</sup> How to get a perfect SAT score, by a 2400 expert full scorer

(<http://blog.prepscholar.com/how-to-get-a-perfect-sat-score-by-a-2400-sat-scorer>)

図表 6 非公式 SAT スコアリングレポート (要約ページ)



図表 7 非公式 SAT スコアリングレポート要約ページの Writing セクション (一部和訳)



図表 8 非公式 SAT スコアリングレポート Writing 詳細ページ

**Writing: Your Score Details**

The writing section shows how clearly and effectively you communicate ideas.

**WRITING: 800**  
MULTIPLE CHOICE: 80  
ESSAY: 10

**RANGE**  
200 800  
780 - 800

When you take tests more than once, your scores may vary. This expected variation is considered your score range.

**PERCENTILE**  
The percentile for your writing score of 800 is 99. You scored higher than 99% of last year's graduating class of students who took the SAT.

**NOTE:** The information on this page (except for your section score, score range, and national percentile) does not appear on your official score report and is not used by colleges.

MULTIPLE CHOICE QUESTIONS	CORRECT ANSWERS	INCORRECT ANSWERS	OMITTED ANSWERS
<b>IMPROVING SENTENCES</b>			
EASY QUESTIONS	8	0	0
MEDIUM QUESTIONS	9	0	0
DIFFICULT QUESTIONS	8	0	0
<b>TOTAL</b>	<b>25</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>IDENTIFYING SENTENCE ERRORS</b>			
EASY QUESTIONS	3	0	0
MEDIUM QUESTIONS	11	0	0
DIFFICULT QUESTIONS	4	0	0
<b>TOTAL</b>	<b>18</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>IMPROVING PARAGRAPHS</b>			
EASY QUESTIONS	2	0	0
MEDIUM QUESTIONS	2	0	0
DIFFICULT QUESTIONS	2	0	0
<b>TOTAL</b>	<b>6</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>ESSAY</b>			
READER ONE	5		
READER TWO	5		
<b>TOTAL</b>	<b>10</b>		

Your essay score was obtained by adding the scores of two readers.

**Understanding Your Writing Score**  
How Your Essay is Scored  
Will Retaking the SAT Reasoning Test Improve Your Writing Score?

**What's My Percentile?**  
You scored higher than these percentages of students based on last year's graduating class of students who took the SAT.

NATIONAL	YOUR STATE	YOUR HIGH SCHOOL
99%	99%	99%

**What's the Average Score?**  
Your writing score is 800. Average writing scores based on last year's graduating class of students who took the SAT.

NATIONAL	YOUR STATE	YOUR HIGH SCHOOL
300	487	500

**How Does My GPA Compare?**  
Your grade point average (GPA) in high school, compared to other students at your school (based on last year's graduating class of students who took the SAT).

AVERAGE GPA AT YOUR HIGH SCHOOL	YOUR GPA
3.39	4.33

国全体、州全体、同じ高校で見た際のパーセンタイル。昨年度の結果を元に表示。

国全体、州全体、同じ高校の、それぞれの平均点を表示。

同じ高校の平均GPAとの比較

エッセイの採点に関する説明。  
• 経験のある訓練された2人の採点者(高校または大学の先生)が採点する。  
• 各採点者には学生の個人情報や学校名、お互いの採点者が採点した結果は非公開になっている。

もう一度受検した場合にスコアが上がるのか、それとも下がるのかどうかの予測を、同じ点数を取った学生の過去の統計情報から提示している。

See Glossary of Terms on page 10

図表 9 非公式 SAT スコアリングレポート Writing 詳細ページ 和訳 (一部抜粋)

**Writing: 得点の詳細**

Writingセクションはどれだけ明確で効果的に考えを伝えることができるかを表しています。

**WRITING: 800**  
複数選択問題 : 80  
エッセイ: 10

**RANGE**  
200 800  
780 - 800

テストを複数回受験する場合、点数が異なる場合があります。上記は再び受検した際に期待される点数を得点範囲として表しています。

**PERCENTILE**  
あなたのWritingスコア(800点)のパーセンタイルは99です。昨年のSAT受験生の99%よりも高いスコアです。

**公式スコアレポートよりも詳細な情報が記載されている**

注意: このページの情報は、セクションの得点、得点範囲、パーセンタイルを除いて公式スコアレポートには記載されず、大学からも参照されることはありません。

複数選択問題	正解数	不正解数	解答しなかった数	難易度別の正答数を表示
<b>文章の改善</b>				
易しい問題	8	0	0	
普通の問題	9	0	0	
難しい問題	8	0	0	
<b>合計</b>	<b>25</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>文章間違いの特定</b>				
易しい問題	3	0	0	
普通の問題	11	0	0	
難しい問題	4	0	0	
<b>合計</b>	<b>18</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>段落の改善</b>				
易しい問題	2	0	0	
普通の問題	2	0	0	
難しい問題	2	0	0	
<b>合計</b>	<b>6</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>エッセイ</b>				
採点者1	5			
採点者2	5			
<b>合計</b>	<b>10</b>			

エッセイの得点は2名の採点者の合計となります。

採点者毎の得点を表示

図表 10 非公式 SAT スコアリングレポート エッセイ回答例<sup>8</sup>

受検生が解答した  
エッセイがイメージ  
としてそのまま添  
付されている。

ESSAY IMAGE

Begin your essay on this page. If you need more space, continue on the next page.

People who are more fortunate than others—whether through wealth, health, or environment—should aim to support the less fortunate. Each person is born into his life circumstances without any control, with some people harboring tremendous advantages over others. The more fortunate should therefore aim to promote the lives of the unfortunate in such a way that the unfortunate can be empowered to create their own opportunities.

One mode of support is through financial philanthropy. Bill Gates founded Microsoft in the 1970s and over the following decades built it into one of the most valuable and impactful companies in the world. He, however, had a very fortunate upbringing that underpinned this growth. The child of a wealthy lawyer, Gates attended a boarding school that had rare access to computing power. At the time, this was usually reserved for universities. The early exposure to the revolutionary computer gave Bill an tremendous advantage over others his age, directly enabling him to found Microsoft. Realizing this, Gates created his philanthropic foundation, the Bill & Melinda Gates Foundation, and pledged nearly all his wealth to global health initiatives. The mission statement of the foundation speaks to the importance of enabling the less fortunate worldwide to

<sup>8</sup> SAT Essay (<https://collegereadiness.collegeboard.org/sat/inside-the-test/essay>)

## 2. 新 SAT

### (1) 得点構成

旧テストから新しくサブ得点とクロスセクション得点が追加され、教科科目が重視されるようになった。旧 SAT では 2,400 点満点であったが、新 SAT では 1,600 点満点となった。以下に得点構造を示す<sup>9</sup>。

図表 11 新 SAT の得点構成



### (2) 記述式問題

旧 SAT では必須であったエッセイがオプションとなり、総合スコアとは別に結果が表示されるようになった。Reading (読み)、Analysis (分析)、Writing (書き) の観点で、それぞれ 2-8 点で採点される。回答時間は 50 分である。旧 SAT と同様、採点は 2 名の採点者が 1 つの答案を個別に採点し、上述したそれぞれの観点毎に 1-4 点で採点を行ない、その合計点が最終的な得点となる。オプション扱いではあるものの、大学によっては提出が必須の場合もあり、学生は大学の入学要件を良く理解した上でエッセイの受験を選択する必要がある。

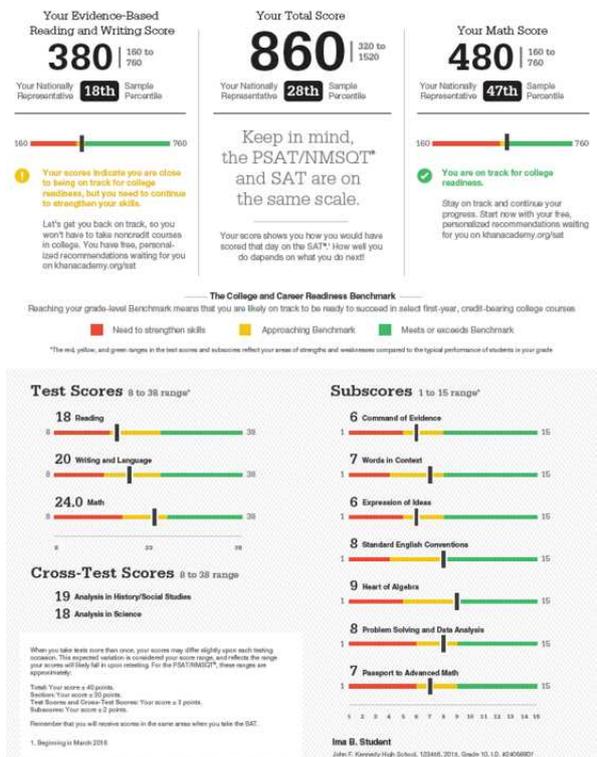
<sup>9</sup> New Score Structure

(<https://collegereadiness.collegeboard.org/educators/higher-ed/scoring-changes/new-score-structure>)

### (3) スコアレポート

スコアレポートに関する解説付きサンプル (SAT の模擬試験である PSAT のスコアレポートサンプル) を以下に示す<sup>10</sup>。

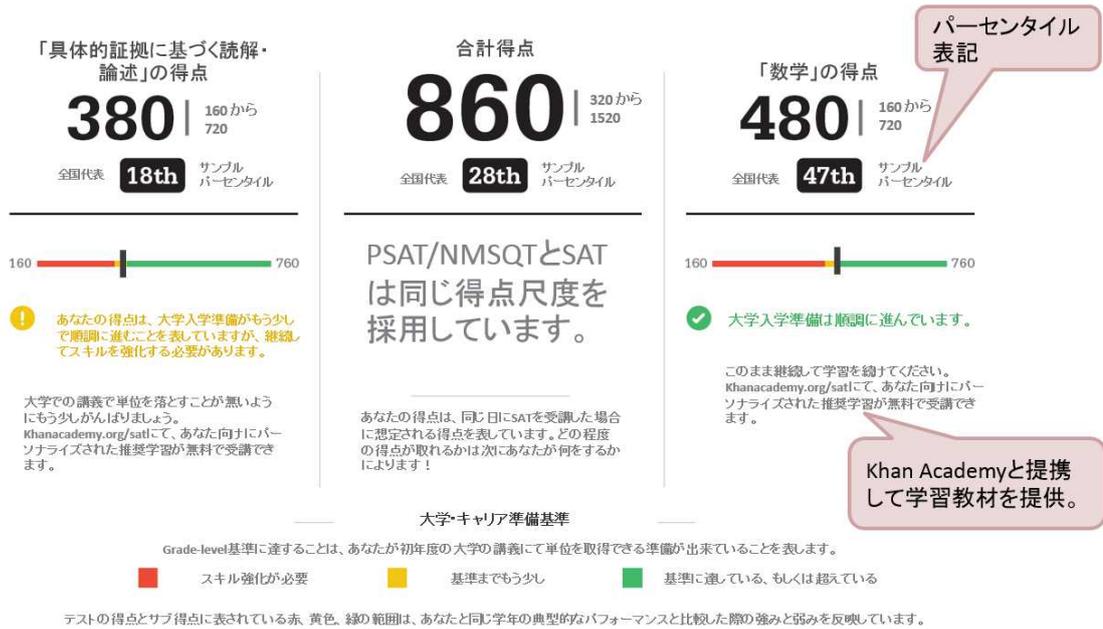
図表 12 PSAT/NMQT スコアレポートサンプル



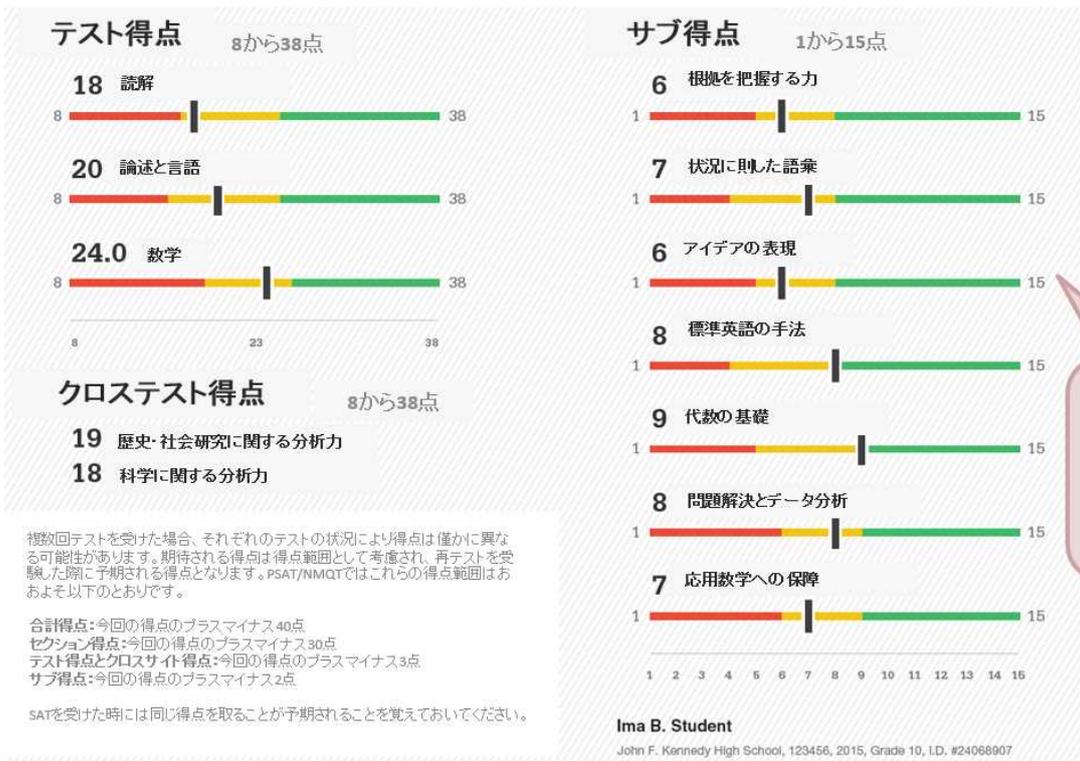
- SATの模擬試験である PSAT/NMQST(Preliminary SAT/National Merit Scholarship Qualifying Test)のスコアレポート(公式サンプル)
- PSAT/NMQSTの合計得点は 320-1520、読解・論述と数学のスコアはそれぞれ160-760となっており、SATとは得点範囲がわずかに異なる。
- 得点の基準はSATと同じであるため、例えばPSATで860点をとった場合はSATでも860を取ることが期待される(現行PSATでは240点満点であり、2400点満点である現行SATの点数との単純比較は出来なかった)

<sup>10</sup> PSAT/NMQST sample score report (<https://collegereadiness.collegeboard.org/pdf/sample-psat-nmsqt-score-report.pdf>)

図表 13 PSAT/NMQT スコアレポート 得点表示部 (一部和訳)



図表 14 PSAT/NMQT スコアレポート 得点詳細表示部 (一部和訳)





## 2.2. ACT (American College Testing)

SAT と同じく、複数回の受検が可能な大学入学者選抜に係る米国の共通試験の1つである ACT についての調査結果を、以下に示す。

### (1) 得点構成

Math (数学)、English (英語)、Reading (読解)、Science (科学) の4つの科目で構成され、それぞれ1-36点で採点される。最終的な得点は各科目の得点を合計するのではなく平均することで得られる (Composite Score: 複合得点)<sup>11</sup>。

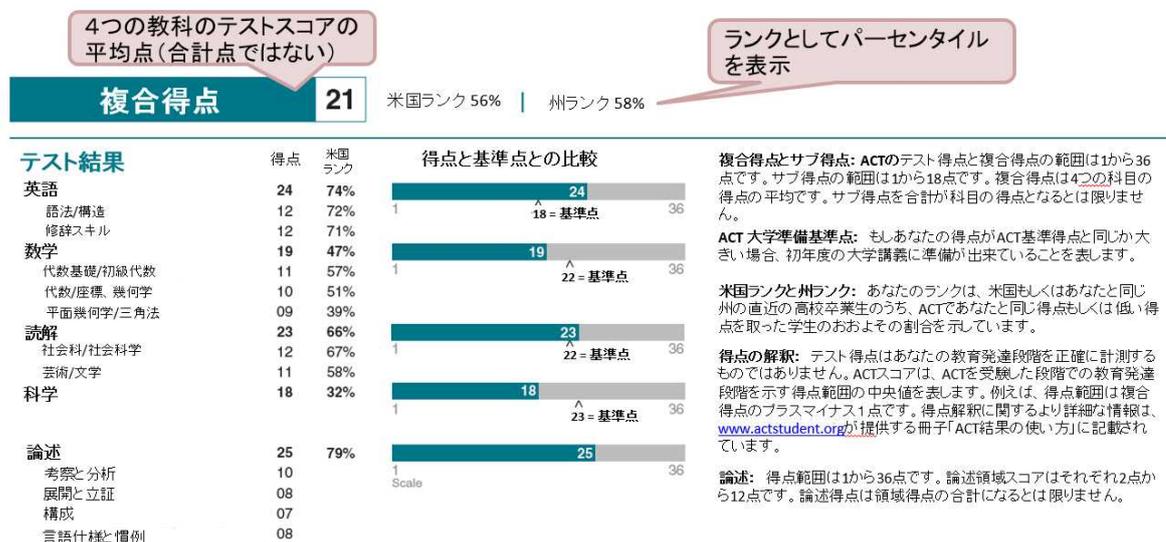
### (2) 記述式問題

オプションとしてエッセイがあり、1-36点の得点範囲で採点される。回答時間は40分である。「考察と分析」「展開と立証」「構成」「言語仕様と慣例」の4領域から構成され、それぞれが2-12点で採点されるが、各得点の単純な合算値が最終的な点数とはならない。それぞれの領域ごとに2名の採点者が1-6点で採点を行い、その合計点が各領域の得点となる。エッセイ以外の結果は9-10日間で採点されるが、エッセイはさらにそこから2週間かけて採点が行われる。また、エッセイはオプションではあるものの、新SATと同様に大学によっては提出を求められる。

### (3) スコアレポート

スコアレポートに関する解説付きサンプルを以下に示す<sup>12</sup>。

図表 16 ACT レポートサンプル 得点表示部 (一部和訳)



<sup>11</sup> Make Sense of Your Scores

(<http://www.act.org/content/act/en/products-and-services/the-act/your-scores/understanding-your-scores.html>)

<sup>12</sup> Sample student score report

(<http://www.act.org/content/dam/act/unsecured/documents/Student-Report-04-2016.pdf>)

図表 17 ACT レポートサンプル ELA STEM 等得点表示部 (一部和訳)



図表 18 ACT レポートサンプル 大学情報一覧

Your College Reports

At your direction, your scores from this test date are being reported to the colleges shown below. College planning information is provided for the first four choices you listed when you registered or tested. Check with colleges for recent changes in information. Note: Your GPA was calculated from the grades you reported.

College Name (Code)	Profile of Enrolled 1st-Year Students				Approximate Annual Tuition and Fees		Percentage of 1st-Year Students Receiving Financial Aid	
	ACT Composite Score	High School Class Rank	High School GPA	Preferred Program of Study Availability	In-state	Out-of-state	Need-based	Merit-based
UNIVERSITY OF OMEGA (9521) OMEGA, CO WWW.UNIVERSITYOFOMEGA.EDU	MIDDLE 50% BETWEEN 19-24	MAJORITY IN TOP 50%	2.76	4-YR DEGREE	\$5,600	\$12,000	67%	20%
ALPHA UNIVERSITY (9059) UNIVERSITY CENTER, IA WWW.ALPHA.EDU	MIDDLE 50% BETWEEN 21-26	MAJORITY IN TOP 25%	3.12	4-YR DEGREE	\$9,000*	\$15,000*	85%	27%
BETA COMMUNITY COLLEGE (8866) CLARKSTON, CO WWW.BETACC.EDU	MIDDLE 50% BETWEEN 16-21	MAJORITY IN TOP 75%	2.49	PROGRAM AVAILABLE	\$4,000	\$4,000	58%	18%
MAGNA COLLEGE (8905) PLAINVIEW, OH WWW.MAGNA.EDU	MIDDLE 50% BETWEEN 21-26	MAJORITY IN TOP 50%	2.71	4-YR DEGREE	\$8,500	\$14,000	90%	35%

Student Information	Composite Score	Class Rank	Calculated GPA	Selected Major
	21	TOP 25%	3.29	ACCOUNTING

For more information on college and career planning, interpreting your scores, and sending additional reports, go to [www.actstudent.org](http://www.actstudent.org).  
A dash (—) indicates information was not provided or could not be calculated. \* Institution provided cost information in excess of more than tuition and fees.

試験受験申込時に選択した大学の情報 (ACTの複合得点、学費、高校時のGPA等)を一覧表示。自身のACT得点及びGPAと比較ができる。

## 2.3. NAPLAN (National Assessment Program – Literacy and Numeracy)

NAPLAN<sup>13</sup>は2008年よりオーストラリアで実施されている学力テストで、3年生、5年生、7年生（日本の中学1年生にあたる）、9年生（日本の中学3年生にあたる）が受験するPBTである。

### (1) 得点構成

Reading（読み）、Writing（書き）、Language Conventions（言語規則）、Numeracy（基礎計算能力）で構成される。各領域の得点はバンド（Band）と呼ばれる10段階の得点範囲で示される。学年ごとにバンドの範囲は異なり、3年生、5年生、7年生、9年生でそれぞれ1-6、3-8、4-9、5-10のバンドが使用され、1が低く10が高い得点範囲を示す。

### (2) 記述式問題

エッセイの題目として、「3年生・5年生向け」、「7年生・9年生向け」の2つが提供される。エッセイの記述種別としては、Persuasive Writing（説得）とNarrative Writing（物語）の2種類が存在し、毎年どちらか一方の記述種別に沿った問題が出題されることになるが、受験生には事前には通知されない（採用される記述種別は全学年を通じて共通）。採点基準は全学年を通じて共通で、回答時間は40分で文字数制限はない。

### (3) スコアレポート

スコアレポートに関する解説付きサンプルを以下に示す<sup>14</sup>。

---

<sup>13</sup> NAPLAN (<http://www.nap.edu.au/naplan/naplan.html>)

FAQs NAPLAN - writing test (<http://www.nap.edu.au/information/faqs/naplan--writing-test.html>)

<sup>14</sup> Student Report (<http://www.nap.edu.au/results-and-reports/student-reports.html>)

図表 19 NAPLAN スコアレポートサンプル (一部和訳)

## 国内アセスメントプログラム - 読み書き能力と基礎計算能力

2014年度、国内読み書き能力と基礎計算能力アセスメントはオーストラリア全土の3年、5年、7年、9年生に対して実施されました。

このレポートは上記アセスメントにおける貴方の子供の達成度を示すものです。

このレポートに含まれる情報は、学校が独自に行なっているテスト及びそのレポートと一緒に考慮される必要があります。

### 読み書き能力アセスメント

読み書き能力アセスメントでは、生徒の読み、読解力(記述)、及び言語規則力の達成度を測りました。

#### 読み

生徒は9年生のクラスで使用される文章と似通った様々な文章を読み、その理解度を示すために様々な難易度の質問に答える必要があります。

#### 説得力(記述)

生徒はstimulus materialに応える形で記述することを求められます。この記述では、考えを生成・体系化することが要求され、語彙使用、文章構造、スペル、句読点に係る能力が表現されます。

#### 言語規則力

生徒はスペルの間違いを発見し正すことが求められると共に、文法と句読点に関する複数選択問題に解答する必要があります。

### 基礎計算能力アセスメント

2つの基礎計算能力アセスメントでは、数字、代数、関数、パターン、計測、chance and data、spaceに係る達成度を測ります。各問題には生徒に数学的決断、及び様々なコンテキストにおけるスキルと理解度を要求します。

#### レポートの見方

生徒の結果は、それぞれのアセスメントエリアでの達成度スケールとして表示されます。

3年、5年、7年、9年生の言語能力、数学能力アセスメントにおける結果は、Band 1からBand 10までのスケールとしてレポートされます。達成度スケールはアセスメントにて発揮されたスキルと理解力のレベルを表しています。

9年生の結果は、Band 5からBand 10の範囲でレポートされ、Band 6はこの年の国内最低基準を示しています。

9年生の国内平均と達成範囲もスケールに表示されています。

貴方のお子様の結果はこのレポートの中のページに記載されています。

Year 9



## 2.4. その他の大学入学者選抜に係る共通試験

イングランドとウェールズ、北アイルランドでは全国統一試験として GCE (General Certificate of Education) が実施されており、義務教育 (5-16 歳) を修了するときに受験する GCSE (General Certificate of Secondary Education) と、さらにその後に受験可能な大学入試にあたる GCE-A レベル (General Certificate of Education, Advanced Level) が存在する。GCE-A レベルでは通常 3-4 科目を受検し、記述式筆記試験が中心となる。各科目は A\*、A、B、C、D、E の結果で表示され、各評価はポイント換算されて利用されることもある (A=120、B=100 等)。

フランスでの大学入学者選抜に係る共通試験としてはバカロレア試験がある。筆記及び口述形式の試験となっており、各教科 20 点満点で採点され、係数処理等がなされた後、平均 10 点以上で合格となる。獲得した平均点数に応じて秀 (平均 16 点以上)、優 (平均 14 点以上 16 点未満)、良 (平均 12 点以上 14 点未満) の成績評価が与えられる<sup>15</sup>。採点は高校教員が 2 週間かけて実施し、調整委員会や合否判定委員会にて採点者間での採点結果が比較・検討され得点の調整が行われる。また、高校の内申書の成績がバカロレア試験の点数よりも良い場合は合否ラインの点数を数点あげることが認められている<sup>16</sup>。

## 2.5. 米国における SAT/ACT のスコアの利用状況について

米国では、ハーバード大学 (Harvard University) やマサチューセッツ工科大学 (Massachusetts Institute of Technology : MIT) などの有名大学を始めとする、数多くの大学にて SAT の結果を入学要件の一部として使用している。

SAT は複数回の受検が可能であるが、複数回の受検結果のうち、受検生がどのスコアを大学に提出する必要があるか、また大学がどのスコアを採用するか等のルールは、各大学によって異なっている。このルールは、それぞれの大学が入学要件として定めて、公表している<sup>17</sup>。スコアの利用方法のルールの例を、以下に示す。

---

GCE Advanced level ([https://en.wikipedia.org/wiki/GCE\\_Advanced\\_Level\\_\(United\\_Kingdom\)](https://en.wikipedia.org/wiki/GCE_Advanced_Level_(United_Kingdom)))

The Importance of SAT Scores for College Admissions

(<http://classroom.synonym.com/importance-sat-scores-college-admissions-1430.html>)

American University Requirements for Admission

(<http://www.prepscholar.com/sat/s/colleges/American-University-admission-requirements>)

The Importance of SAT Scores for College Admissions

(<http://education.seattlepi.com/importance-sat-scores-college-admissions-1019.html>)

<sup>15</sup> フランスのバカロレアと高等教育の質保証に関する一考察

(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/oba/docs/baccaluareat20050521.pdf>)

<sup>16</sup> フランスのバカロレア試験における評価観

([http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/108466/1/eda056\\_387.pdf](http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/108466/1/eda056_387.pdf))

<sup>17</sup> Which Colleges Superscore the SAT? (<http://blog.prepscholar.com/which-colleges-superscore-the-sat>)

The Importance of SAT Scores for College Admissions

(<http://classroom.synonym.com/importance-sat-scores-college-admissions-1430.html>)

American University Requirements for Admission

(<http://www.prepscholar.com/sat/s/colleges/American-University-admission-requirements>)

The Importance of SAT Scores for College Admissions

(<http://education.seattlepi.com/importance-sat-scores-college-admissions-1019.html>)

- 例① 提出された全テスト結果の中で、各セクションの最高点を採用する。  
ボストン大学 (Boston College)、マサチューセッツ工科大学 (MIT) 等
- 例② 提出された全テストの内、合計点が最高のテストを採用する。  
アリゾナ州立大学 (Arizona State University) 等
- 例③ 全ての受検結果の提出を必須する。  
カーネギーメロン大学 (Carnegie Mellon University)、  
スタンフォード大学 (Stanford University) 等

しかし、各大学が、受検者のテスト結果スコアを、入学判定に具体的にどのように使用しているか（全体の要件に対する配点比重など）は一般には公開されていない。これは米国の大学では、SAT/ACT といった共通試験のスコアだけではなく、学業成績を平均化した指標である GPA (Grade Point Average) やクラスでの順位、課外活動・コミュニティ活動への参加、生徒の特技等といった多種多様な要素が、大学への入学可否の判定に関係していることが影響している。そのため、近年では、ボードウィン大学 (Bowdoin College) やウェイクフォレスト大学 (Wake Forest University) 等、SAT/ACT 等の共通試験の結果を重要視しない、もしくは採用しない大学も増えており<sup>18</sup>、ハーバード大学も学部や学科によっては SAT の提出を選択制にすることを計画している<sup>19</sup>。

また一方、各大学では入学した学生の SAT スコアの平均値を公表しており、一部の大学ランキング (U. S. News 等) の要素として使われていることから、高い点数の SAT スコアを持つ学生を獲得するモチベーションの一つになっていると考えられている。

なお、SAT においては 2016 年 3 月からの新しい試験内容とスコア表示変更にあたり、過去のテスト結果との単純比較ができなくなることが問題提起されている<sup>20</sup>。この新たなテスト形式への切り替えによる問題は、日本でも同様に発生する可能性がある。

---

<sup>18</sup> SAT vs. GPA ([http://www.powerscore.com/sat/help/sat\\_vs\\_gpa.cfm](http://www.powerscore.com/sat/help/sat_vs_gpa.cfm))  
The Three Biggest Lies in College Admission  
(<http://www.forbes.com/sites/stevecohen/2012/09/29/the-three-biggest-lies-in-college-admission/>)

<sup>19</sup>米ハーバード大、入試から学力テスト”追放”へ  
(<http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/interview/15/238739/030900143/?rt=ocnt>)

<sup>20</sup> Hiding Common Core's Damage: New SAT Won't Allow Comparison To Prior Years' Scores  
(<http://www.breitbart.com/big-government/2015/09/07/hiding-common-cores-damage-new-sat-wont-allow-comparison-to-prior-years-scores/>)  
New SAT, New Problems (<http://www.theatlantic.com/education/archive/2015/01/new-sat-new-problems/384596/>)

## 2.6. 記述（エッセイ）の自動採点の利用事例

記述式問題の採点効率化に関する観点から、米国における記述（エッセイ）式問題の自動採点システムの利用に関する事例として、e-Rater と呼ばれるシステムに関する調査結果を以下に示す。

e-Rater は、テストやアサインメントの技術・サービスの開発に特化した非営利団体である Educational Test Services (ETS) が開発を行っているシステムであり、自然言語処理 (Natural Language Processing) と呼ばれる技術を用いて、記述された文章の自動採点を行っている<sup>21</sup>。この e-Rater は Criterion Online Writing Evaluation Service (Web ベースで提供される、学生がエッセイを書くための支援ツール) 等にて使用されている。

また、e-Rater は米国の経営学修士 (Master of Business Administration : MBA) の試験である Graduate Management Admission Test (GMAT) の記述（エッセイ）式問題の採点にも使用されており、採点精度と採点効率の向上が図られている<sup>22</sup>。e-Rater を使用した記述式問題の採点方法は次の通りである。

- ① スコアは6段階で、人の採点者と e-Rater の両方により同じテストを採点する。
- ② 採点結果の差が1点以内であれば、双方の採点結果の平均が最終スコアとなる。
- ③ 採点結果の差が1点よりも大きい場合、上位採点者が採点を行い、採点者と上位採点者の平均が最終スコアとなる (e-Rater の採点結果は無視される)。

GMAT 以外にも、ハーバード大学を初めとする世界中の大学や教育機関の講義をオンライン上で、無料で受講できる MOOCs (Massive Open Online Course) サービスである「edX」等でも、エッセイの自動採点を行なうプログラムが導入されているが、未だ実用的な段階ではない。

また、システムによって、エッセイを自動採点すること自体には、賛否両論がある<sup>23</sup>。

これらのシステムの自動採点はコンピュータ上に直接入力されたテキストに対して行われるのが一般的であり、PBT における手書き文字の読み取りに関しては支援対象外である。

---

<sup>21</sup> About the e-rater® Scoring Engine (<https://www.ets.org/erater/about>)

<sup>22</sup> How GMAT Essays are Evaluated and Scored (<http://www.west.net/~stewart/gmat/awa-essay-scores.htm>)

<sup>23</sup> Essay-Grading Software Offers Professors a Break

(<http://www.nytimes.com/2013/04/05/science/new-test-for-computers-grading-essays-at-college-level.html?pagewanted=all&r=1&>)

## 第2章 大学入学者選抜に関する調査

### 1. 高等学校教育の動向

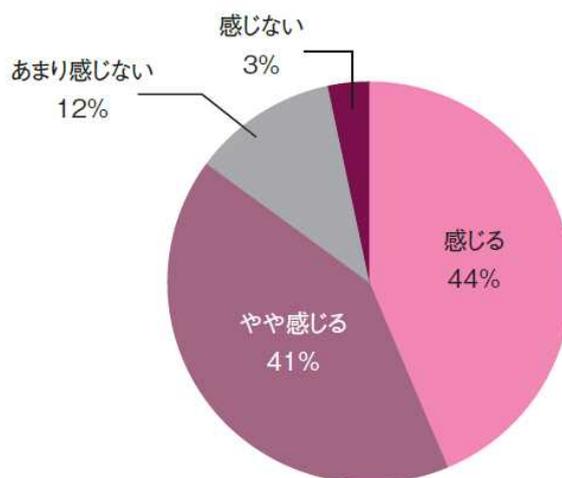
大学入試改革に向けた高等学校教育の動向について、民間企業での主な調査結果を以下に示す。

#### 1.1. 生徒の学習に対する主体性に関する調査

河合塾では、大学入試改革に向けた高等学校教育の動向についての調査として、高校の先生が感じる生徒の主体性の課題について、2015年11月にアンケートを実施している<sup>24</sup>。

本アンケート結果では、生徒の学習に対する主体性について「課題を感じる」が44%、「やや課題を感じる」が41%となっている。

図表 20 生徒の学習に対する主体性の課題

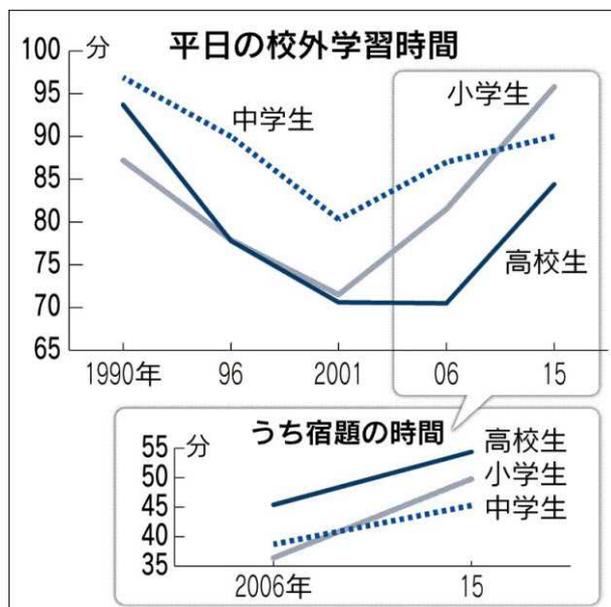


<sup>24</sup>出典：いま、高校生に求められる主体性とは、Kawaijuku Guideline 2015.11  
「Kawaijuku Guideline」読者の教員を対象に2015年7月に実施。回答数182件

## 1.2. 学習行動・意識に関する調査、分析

ベネッセでは小・中・高校生の学習行動・意識について調査している<sup>25</sup>。本調査の分析メンバーの代表者であるお茶の水女子大学の耳塚寛明教授によれば、学習への回帰が見られるという<sup>26</sup>。

図表 21 平日の校外学習時間



しかし、本調査における、能動的学習の実施率に関する分析においては、授業の中で「どのように調べればよいかを考える」小学生は81%と多いが、高校生は49%にとどまっており、能動的学習への転換はとりわけ高校で遅れていると指摘している。また、能動的な学習スタイルの普及が、深く思考する「能動的学習者」の育成に確かに結びついているかの検証が課題だとして問題提起している。

<sup>25</sup>出典：「第5回学習基本調査」データブック [2015]、ベネッセ教育総合研究所、2016年1月

<sup>26</sup>日経新聞、2016年3月21日

## 2. 大学教育の動向

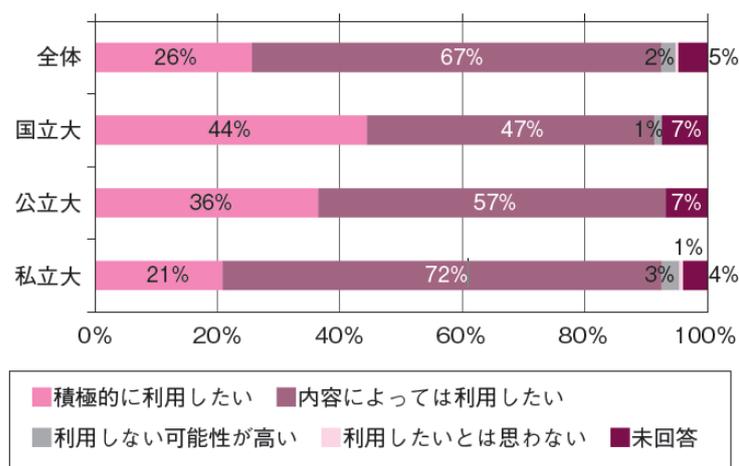
大学入試改革に向けた大学教育の動向についての調査結果について、民間企業での主な調査結果を以下に示す。

### 2.1. 大学への大学入学希望者学力評価テスト（仮称）に関するアンケート調査

朝日新聞、河合塾の共同調査では2015年6月～7月に国公私立大学 746校（4年制または6年制の大学（大学院大学・通信制のみの大学は除く））へ、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）等に関して、アンケート調査を実施している<sup>27</sup>。

本アンケート調査では学長が大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の利用を考えているか調査している。全体では26%が「積極的に利用したい」、67%が「内容によっては利用したい」と回答している。

図表 22 大学入学希望者学力評価テスト（仮称）を利用するか（n=639）



続いて、「積極的に利用したい」「内容によっては利用したい」の選択肢を選んだ大学に対して、どのように利用したいのか追加調査を実施している。

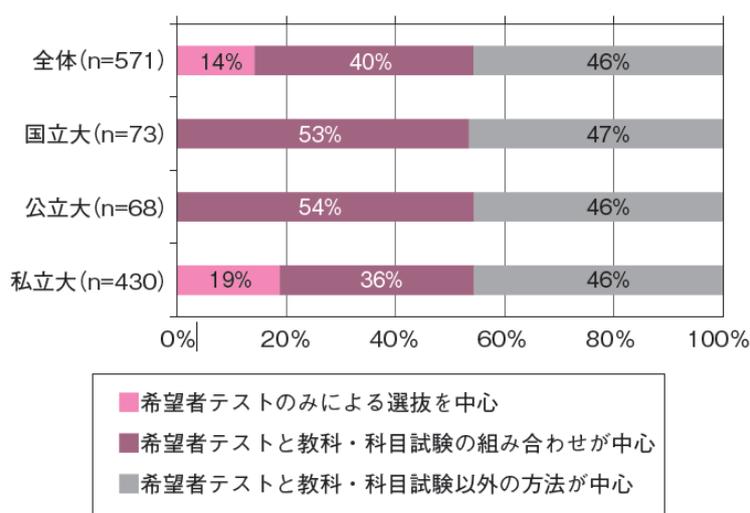
<sup>27</sup>出典：朝日新聞、河合塾 共同調査、第16回2015年度調査結果報告、Kawaijuku Guideline 2015.11 調査の実施期間：2015年6月～7月

調査対象：国公私立大学746校 4年制または6年制の大学（大学院大学・通信制のみの大学は除く）

調査方法：ホームページからのダウンロード・郵送によるアンケート用紙の配布・回収

調査ご協力校数（2015年8月現在）：国立大学81校（回答率99%）、公立大学74校（回答率88%）、私立大学486校（回答率84%）、合計641校（回答率86%）

図表 23 大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の利用について

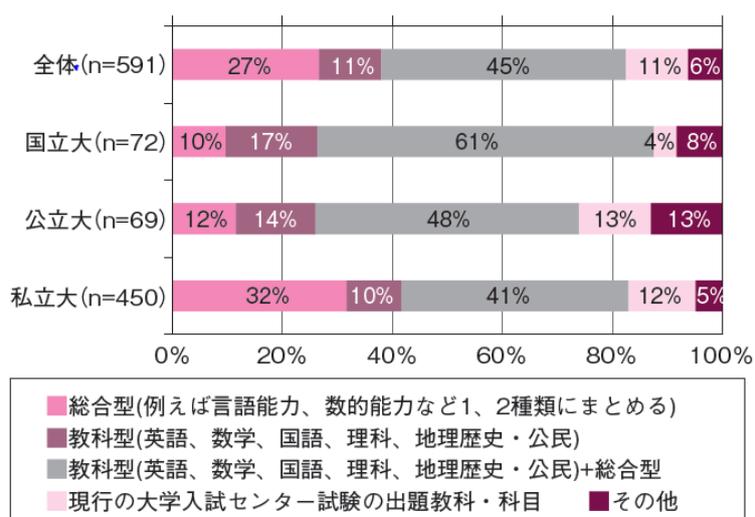


特に、私立大において、「希望者テストのみによる選抜を中心」という回答が見られる。

大学入学希望者学力評価テスト（仮称）ではこのような私立大学における受検生のレベルの底上げのためにも、知識、技能だけではなく、思考力、判断力、表現力を問う意義があると考えられる。

また、同調査では、2014年12月の高大接続改革答申において、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）では「合教科・科目型」「総合型」の出題も検討されていたことを受けて、どのような内容の出題を期待しているかについて調査している。

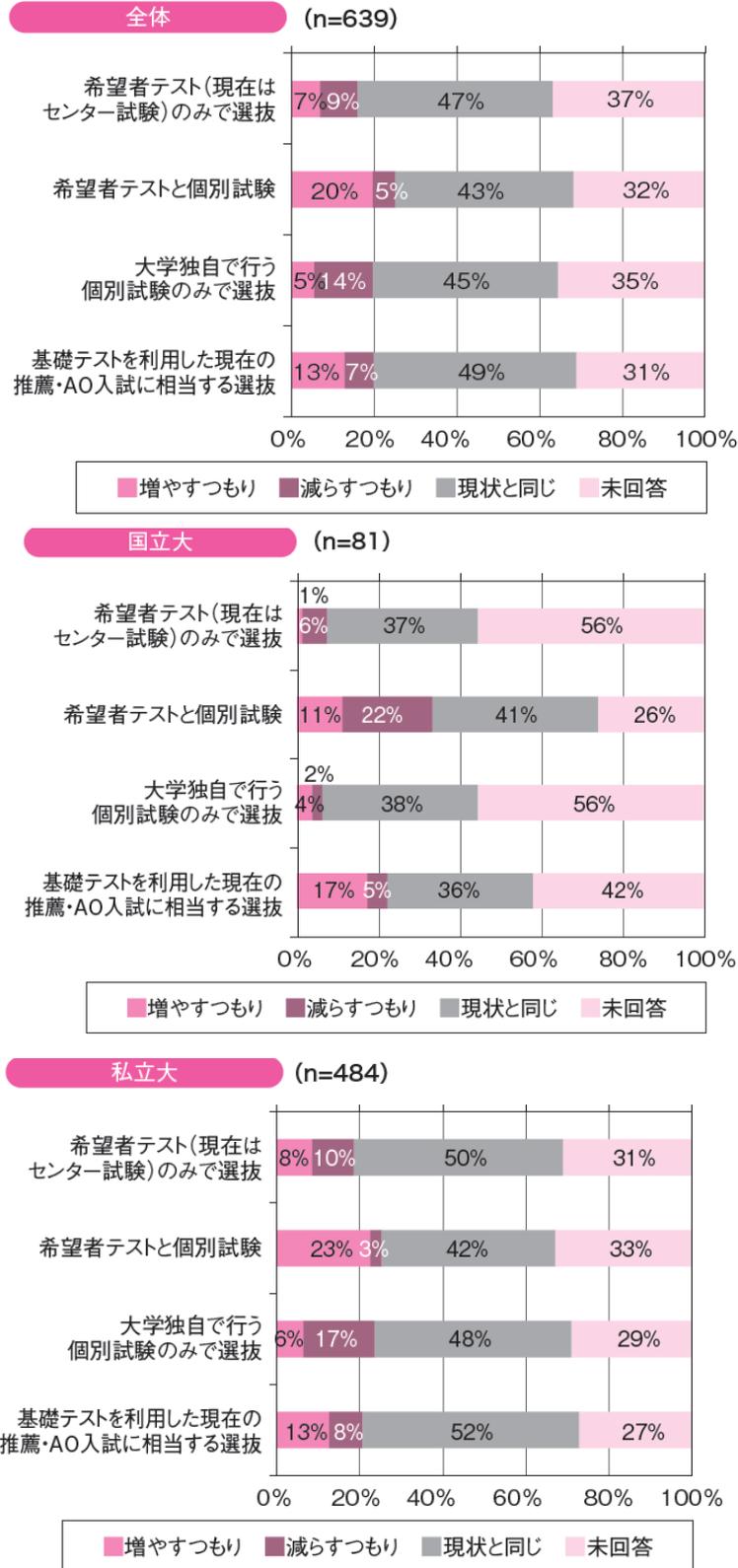
図表 24 大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の出題教科



全体として、「総合型（例えば言語能力、数的能力など1、2種類にまとめる）」と「教科型（英語、数学、国語、理科、地理歴史・公民）+総合型」の合計で72%となっている。総合型に対する期待がうかがえる。

最後に、本調査では募集定員に関してもアンケートを実施している。

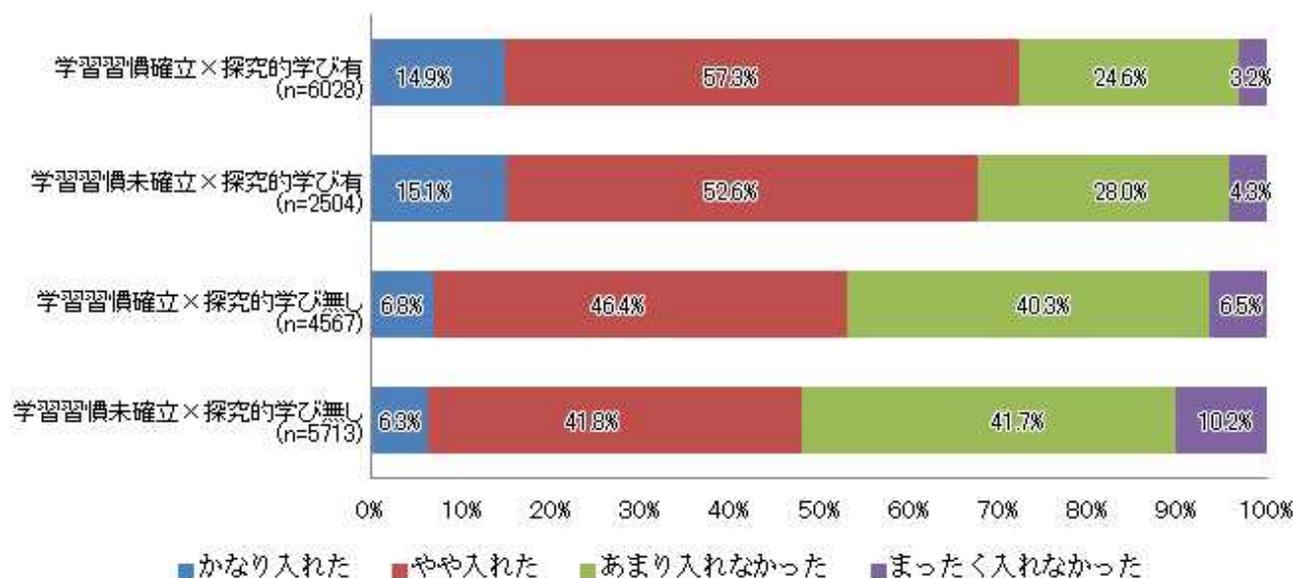
図表 25 募集定員をどのように変更するか



一方、ベネッセ教育総合研究所においては、高校時代の経験と大学入学後の学習に対する傾向について調査している<sup>28</sup>。

調査結果は、高校時代に「学習習慣を確立」し、かつ「探究的な学び」を経験した大学生ほど、1年次に大学で「論理的思考力を身につける」学びに力を入れる傾向にあることを示している。

図表 26 高校時代の経験別「大学1年次に論理的思考力を身につけることに力を入れたか」



高校時代の学習、経験が大学入学後の学習に影響を与えることを示唆している。

また、同調査では、高校と大学の接続の課題が大学の入試難易度によって異なることがあることに注目し、大学（学科）の入試難易度別の調査、分析を実施している。

ここでは、文系（人文科学、社会科学、教育）の大学（学部・学科）を対象に分析を実施している<sup>29</sup>。分析の前提として、大学（学部・学科）の入試難易度の区分を、以下の通り整理している。

- ・ A群 : 入試難易度（偏差値）60以上の学科（国公立38部局、私立82部局）
- ・ B群 : 入試難易度（偏差値）50以上60未満の学科（国公立102部局、私立179部局）
- ・ C群 : 入試難易度（偏差値）50未満の学科（国公立7部局、私立389部局）

ここで用いる大学の入試難易度は、大学の募集単位（その多くは学科単位）のものであり、合格可能判定がB（合格可能性が60%以上80%未満）となる値が用いられている。

<sup>28</sup>出典：ベネッセ教育総合研究所 アセスメント研究開発室 ベネッセのオピニオン第66回 高大接続改革の新テストの方向性を予想する 2015年02月06日 掲載

<http://berd.benesse.jp/assessment/opinion/index2.php?id=4408>

<sup>29</sup>本調査は各大学（または各学部・学科）の長を対象に実施されている。

図表 27 学生の受け入れ状況の比較

項目	選択肢	大学・入試難易度			p
		C群 (N=396)	B群 (N=281)	A群 (N=120)	
志願者数が少ない	とてもそう +まあそう	79.8%	36.7%	26.7%	***
学力が足りない学生も合格させざるを得ない	とてもそう +まあそう	75.3%	29.2%	20.8%	***
大学の教育内容をよく理解しないまま入学してくる学生が多い	とてもそう +まあそう	48.2%	34.2%	23.3%	***
志願者数確保のため、入試科目を減らさざるを得ない	とてもそう +まあそう	40.7%	11.7%	8.3%	***
高校の教育課程で身につけるべき教科・科目の知識・理解が不足している学生	半分くらい以上	56.8%	23.1%	10.8%	***
義務教育(中学校)までで身につけるべき教科・科目の知識・理解が不足している学生	半分くらい以上	35.4%	11.7%	6.7%	***
大学の専門分野を学ぶ上で必要な教科・科目を、高校で履修していない学生	半分くらい以上	31.6%	18.5%	12.5%	***
基本的な学習習慣が身につけていない学生	半分くらい以上	49.5%	22.4%	11.7%	***

\*\*\*: p < .001 \*\*: p < .01 \*: p < .05

受け入れ状況に関してC群（入試難易度（偏差値）50未満の学科）において、「志願者が少ない」、「学力が足りない学生も合格させざるを得ない」という傾向が見られ、厳しい受け入れ状況であることが推察される。

図表 28 入試難易度と学生の能力

項目	選択肢	大学・入試難易度			p
		C群	B群	A群	
貴学部・学科での学習に必要な教科の知識	十分備わっている +ある程度	46.2%	71.5%	82.5%	***
文献や資料にある情報を正しく読み取る力	十分備わっている +ある程度	39.4%	65.8%	85.0%	***
物事を論理的に考える力	十分備わっている +ある程度	30.6%	56.6%	83.3%	***
	( 十分備わっている )	0.3%	0.4%	5.1%	
根拠に基づいて判断する力	十分備わっている +ある程度	36.4%	55.5%	79.2%	***
	( 十分備わっている )	0.3%	1.5%	4.3%	
与えられた課題だけでなく主体的に学ぶ力	十分備わっている +ある程度	29.5%	54.3%	72.4%	***
新しい発想やアイデアを出す力	十分備わっている +ある程度	40.3%	56.7%	75.2%	***
人と協力しながら物事を進める力	十分備わっている +ある程度	78.2%	89.8%	93.2%	***

\*\*\*: p < .001 \*\*: p < .01 \*: p < .05

C 群（入試難易度（偏差値）50 未満の学科）においては、「学部・学科での学習に必要な教科の知識」や「文献や資料にある情報を正しく読みとる力」、「物事を論理的に考える力」が「十分備わっている」、もしくは「ある程度備わっている」の比率が低く、大学での学習を進めるにあたり必要な能力に関して厳しい状況であることが推察される。

図表 29 入試難易度と教育上の課題

項目	選択肢	大学・入試難易度			p
		C群 (N=396)	B群 (N=281)	A群 (N=120)	
学生の実状に対応した教育目標の設定が難しい	とてもそう +まあそう	70.7%	49.8%	40.0%	***
学生の学力が多様で、一律の教育が難しい	とてもそう +まあそう	80.6%	61.6%	40.0%	***
学生の主体性がなかなか育たない	とてもそう +まあそう	68.9%	49.5%	33.3%	***
学生の学習意欲が喚起できない	とてもそう +まあそう	61.4%	37.4%	20.8%	***
多様な取り組みを整理・統合する必要がある	とてもそう +まあそう	60.9%	53.0%	39.2%	***

\*\*\*: p < .001 \*\*: p < .01 \*: p < .05

また、C 群では学生の学力が多様であり、また主体性に課題があることが調査結果から示唆されている。

### 3. 大学入学者選抜の動向

大学入試改革に向けた大学入学者選抜の動向について、民間企業での主な調査結果を以下に示す。

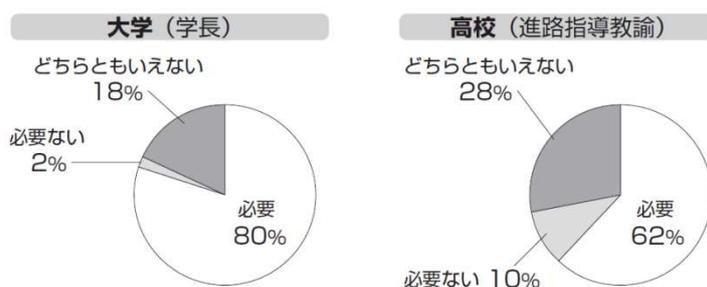
#### 3.1. 大学、高校、保護者に対する調査結果

大学入試改革に向けた大学入学者選抜の動向について、毎日新聞社、駿台予備学校、大学通信の三者は、「大学学長」「高校の進路指導教諭」「生徒や保護者」それぞれにアンケートを実施している。<sup>30</sup>

本アンケートでは 445 大学の学長、進学校 1086 校の進路指導教諭、生徒や保護者 320 人に対して回答を得ている。

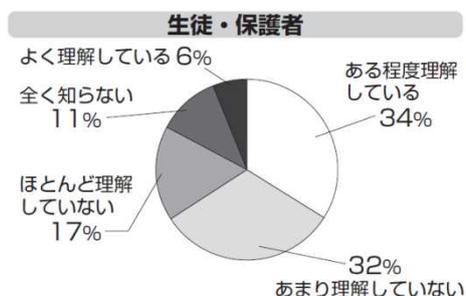
以下の図表に示す通り、大学（学長）、高校（進路指導教諭）に対して、「高大接続改革は必要か」アンケートを実施している。アンケート結果より、大学、高校からは高大接続改革の必要性は一定程度理解されていると推察される。

図表 30 高大接続改革は必要か



一方、生徒・保護者に対して大学入試改革の内容理解について調査している。本結果より、生徒、保護者への理解はまだ不十分と推測される。理解の促進、啓発等、メディア対策の必要性が示唆される。

図表 31 2020 年度「大学入試改革」の内容理解

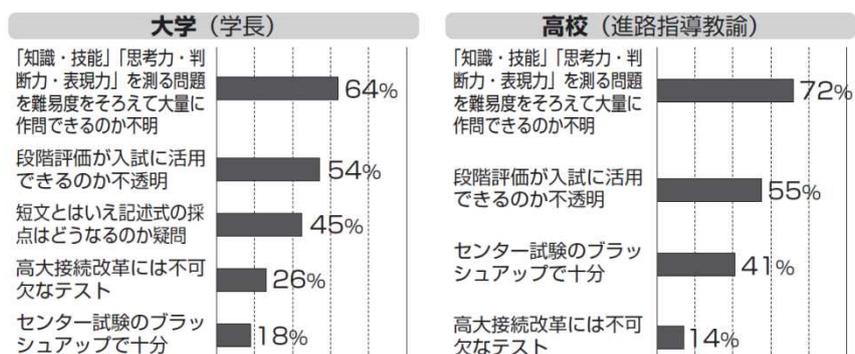


<sup>30</sup>出典：毎日新聞社、駿台予備学校、大学通信緊急アンケート 2016. 2. 14 サンデー毎日

以下の図表では、大学（学長）、高校（進路指導教諭） 大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の印象について調査している。

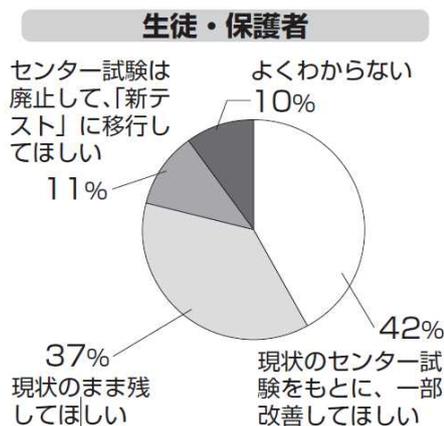
大学、高校共に大学入学希望者学力評価テスト（仮称）に対して、不明、不透明といった印象をもたれており、より一層、具体的内容に関する理解の促進、啓発を進める必要があると示唆される。

図表 32 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の印象（複数回答可）」



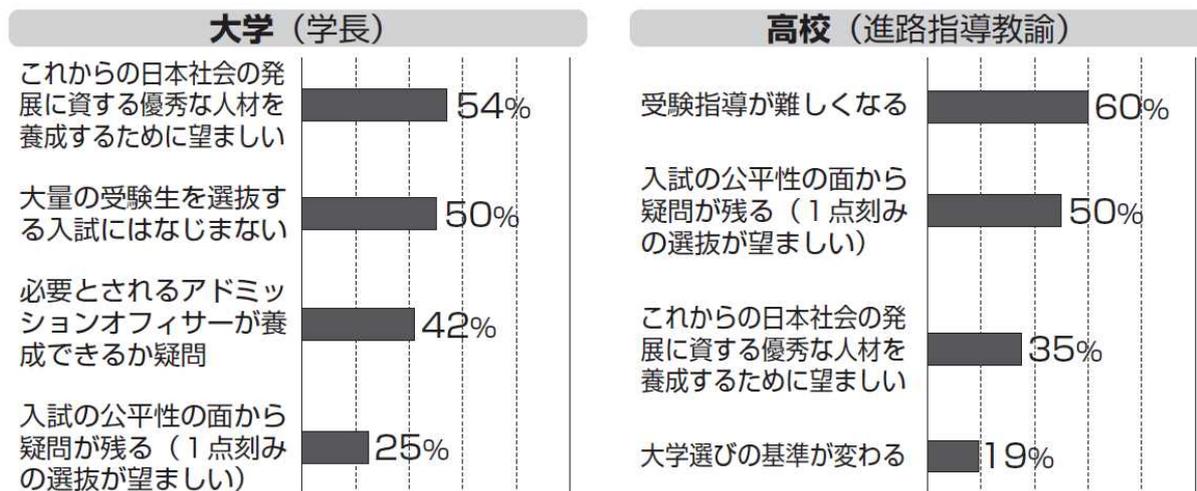
以下の図表では、生徒・保護者に対して、センター試験の廃止について調査している。「現状のまま残してほしい」という意見も 37%あり、理解を得るために丁寧な対応が必要であることがうかがえる。

図表 33 センター試験の廃止について



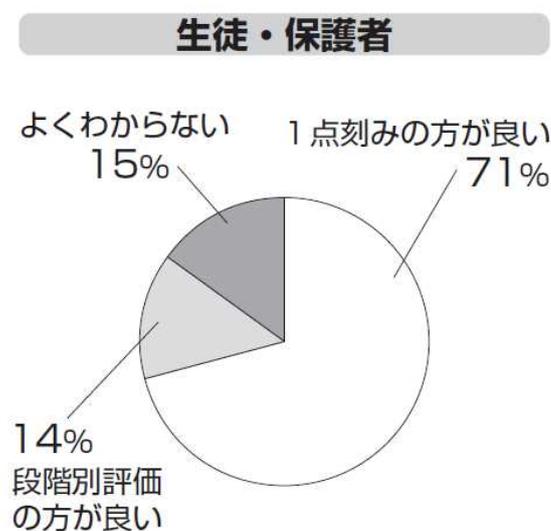
以下の図表では大学入学希望者学力評価テスト（仮称）での段階評価と、個別入試での多面的、総合的評価により学力の3要素を測る新しい入試制度について、調査している。高校へのアンケートでは、「受験指導が難しくなる」という回答が60%となっており、指導に関して現行学習指導要領下および次期学習指導要領下において、丁寧に説明し理解を得ていく必要があることが示唆される。

図表 34 段階評価と個別入試での多面的、総合的評価により学力の3要素について（複数回答可）



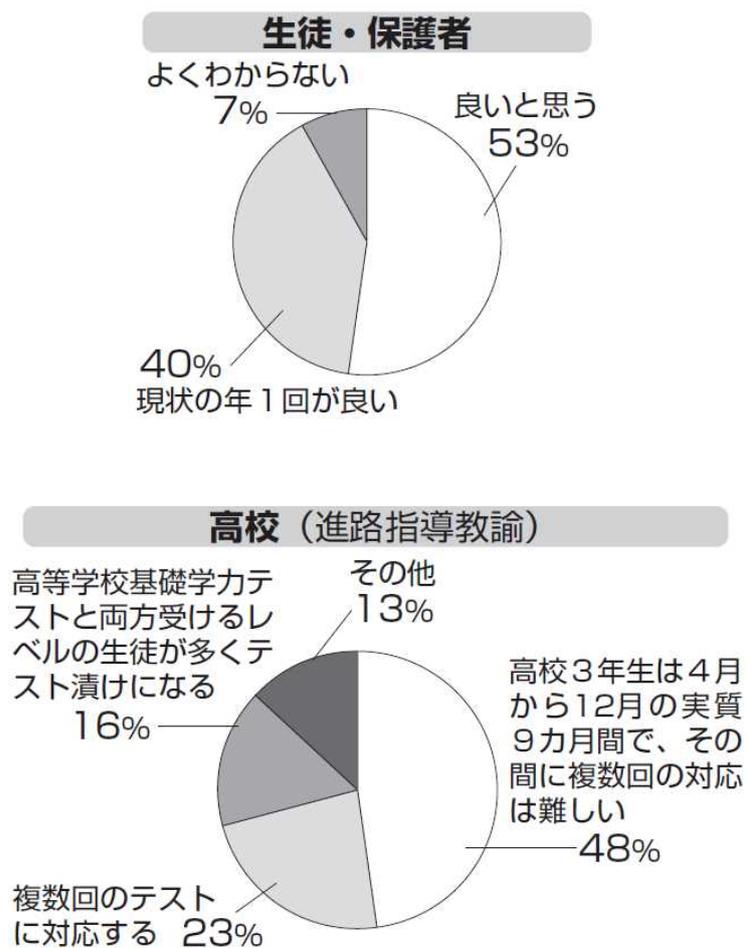
生徒・保護者に対しても、以下の図表の通り段階評価について調査しているが、「1点刻みの方が良い」という回答が71%を占めている。段階評価への移行の際には丁寧に理解を得る必要があることが示唆される。

図表 35 学力評価テストの段階評価についてどう思うか



以下の図表では複数回実施について高校（進路指導教諭）に調査している。「高校3年生は4月から12月の実質9か月間で、その間に複数回の対応は難しい」という回答が48%を占めている。複数回実施に際しては高校生活のスケジュールを考慮した上で実施を検討する必要があることが示唆される。

図表 36 学力評価テストの複数回実施についてどう思うか



## 4. 民間教育業者の動向

大学入試改革に向けて民間教育業者（学習塾・予備校関係）においても動きがある。

駿台予備校では既に2015年6月に同予備校に通う約400人の浪人生が、駿台が独自に作成した合教科型の試験を受験している<sup>31</sup>。同試験はパソコンやタブレットが使用されている。データ収集とノウハウの蓄積を進めている。また、同予備校では2020年に高校3年生になる現在の中学1年生を対象に自宅のパソコンやタブレット端末から受験する「中1未来学力診断テスト」を2015年12月に実施している<sup>32</sup>。

サピックス・代ゼミグループが運営する大手進学塾「Y-SAPIX」は2015年11月に新テストを想定し、思考力などを測る中1対象の「理解力評価テスト」を実施している。<sup>33</sup>2016年には新中1と新中2に対しても実施し、新テストに対する準備を進めている<sup>34</sup>。

大学入試改革でコンピュータを使った試験（C B T）が検討されるなかという文脈で、中学受験進学塾「栄光ゼミナール」がタブレットを導入するという報道もなされている<sup>35</sup>。

中学受験の動向としては、近年では思考力・総合型の入試を実施する学校も広まっている。大学入試改革の流れに沿って、「思考力」を見る新しいタイプの問題を提示資する学校が急増しているという。大学入試改革を先取りする形で導入が進んでいる<sup>36</sup>。

一方、通信教育「Z会」の増進出版社は2016年3月に中学生向け進学塾でグループ討論の授業を導入するという。また河合塾も高校生に思考力などを評価するテストを始める。センター試験が廃止され、新入試で記述式の問題などで思考力などを問う内容になることに対する動きと報道されている<sup>37</sup>。

---

<sup>31</sup> 日本経済新聞、2015年7月25日

<sup>32</sup> 朝日新聞、2015年11月26日

<sup>33</sup> 朝日新聞、2015年8月28日

<sup>34</sup> 週刊ダイヤモンド、2016年3月5日

<sup>35</sup> A E R A、2016年2月1日

<sup>36</sup> A E R A、2016年2月1日

<sup>37</sup> 日本経済新聞、2016年2月2日